

「英語教育今井塾」から学ぶ 「PPP 英文法指導」の実践とその成果について

小林 佳

1. 「英語教育今井塾・PPP 教えない英文法指導」

立命館中学・高等学校教諭 今井康人先生が「英語教育今井塾」「北の英語大学」等の英語セミナーで提唱・指導されている「PPP(教えない英文法指導 Pattern Practice Pair-work)」「英語の自動化」を学び、日々授業で導入・実践しています。小林が3年間担当した平成29年度3年生と平成30年度3年生の英語力の推移を参考にし、主にPPPの有効性とGTECの成績・WPM値の向上についてご紹介したいと思います。

2. PPPとは…

PPPとは文字通り、授業内で英文法をペア学習する文法指導の形態を言います。問題集等を利用しながら生徒同士で教えあう文法指導法ですので集中力が高まり、そして何よりも生徒が生徒に教えることで理解度と定着度が他の指導法より格段に高いと言えます。GTEC等の数値で英語力の伸びを検証します。

3. PPPと自動化授業の成果

平成29年度3年生は入学時からPPPを導入し、センター試験英語の学年平均点は例年よりも20点程高く進路実績に大きく貢献しました。(現役国立大学合格率は例年より30パーセントUP)

平成30年度3年生については、小林は3年生から授業を担当し、この学年にはこの時初めて「PPP・英語の自動化」授業を導入しました。平成30年度3年生のGTECスコアは平成29年10月から翌年9月までの1年間で63.6ポイントの伸びを見せました。残念ながら高校入学時から模試での学年平均偏差値は下降線でした。2年生2月模試においても同様の結果でしたので、PPPと自動化授業導入の3年生4月を境に、一気に英語力が増したと小林は考えています。WPM値も13.7向上。トータルス

コアも前年度3年生には若干及ばないものの、かなり近づきました。GTECの結果を表にまとめると以下ようになります。

実施時期/学年	H30年9月/3年生
学年平均スコア	2年生9月スコアから63.6 UP
WPM	〃 13.7 UP

*スコアについては、紙面上は非公開とします。

4. 自動化とPPPが起こす英語力の向上

「英語教育今井塾」「北の英語大学」でのご指示が生徒の英語力飛躍を生み出しました。

PPPで「英文法を教え合いながら英文を膨大に覚え」「考えながら口頭で解答する」。

生徒は英語を英語で考える状況に置かれ、頭脳は英語化しWPM値も向上してゆきます。PPPには解答の英文とその日本語訳のみが必要で、解答へのヒントや手がかりは生徒自身が考えるのがPPPの特徴です。PPPの真髄がここにあるといえます。文法といえども、そもそも「言葉」ですので、人と人との関わり合いの中で習得した方が、効率が良く定着度も高くなるのは言うまでもありません。仲間の心ある言葉や仲間に教える苦労が印象に残るからです。

また授業ではQ&A, opinion, T/F, summaryを可能な限り多く取り入れ、生徒の英語経験値を上げてゆきます。

T/Fについても時々、ペアで実施します。出題生徒は、問題英文を相手に伝わるように正確に読まなくてはなりません。英文を正確に伝える能力が問われ、緊張感が生まれます。解答をする生徒は正答を考えるだけでなくリスニング能力も磨かれ、必然的に脳内が英語化されます。

授業ではPPPで英文法を鍛え、opinion等で言語体験を幾度となく繰り返します。生徒の脳内には

英語が流れ、英語で物事を考えるので必然的に WPM 値もアップします。GTEC 学年平均スコアが1年間で63以上向上するのも納得がゆきます。

5. 具体的な実践内容

テキストは「ゼスター総合英語 English Grammar in 27 Lessons」p.84 から始まる「Oral Drill パターンプラクティス」を使用しました。

～受動態の PPP ～

問題英文 (1) A lot of people use our computers.

手順1：解答をする生徒 Aさんは、(1)の英文を口頭で受動態の英文にします。

手順2：解答を確認する Bさんは、Aさんの英文を解答冊子で確認しその英文が適切でない場合はヒントを Aさんに伝えます。

ある程度問題を消化した後、立場を入れ替えながら可能な限り多くの問題を口頭で解いてゆきます。

授業後半では英文を Dictation させたり解答冊子にある日本語訳を紙に書いて英訳させます。

授業中、授業者は「授業のリズム」に注意します。授業のリズムが悪いと生徒は集中力を欠き、授業に倦怠感を覚えます。PPPは脳と口のエネルギーを非常に消耗する文法学習法です。生徒の集中力を持続できるよう、授業のリズムを大切にします。

生徒主体の授業ですので、生徒1人1人が考えながら、教え合いながら英語を使用し自ら文法知識を深めます。

また、このパターンプラクティスに使用した多くの例文を英単語帳や例文集などと併用して暗記させると、飛躍的に英語力が伸びます。その生き証人が H29 年度室蘭清水丘高校卒業生 156 名です。

6. 終わりに ～感謝の気持ちを込めて～

英語の授業では大切な学習活動が他にもたくさん存在します。中でも音読・多読は欠くことができず、オーバーラップについて言えば小林の授業では50分間で何度も行い、発音はもちろん英語の抑揚やリエゾンの習得も目指します。

語彙指導もとても重要で、その中でも1番生徒が嫌がる「英単語を覚える」作業は入学時からきめ細かく指導する必要がある、時には教師主導で「覚えさせる」ことも必要であると考えます。

「英語教育今井塾」「北の英語大学」で学んだ指導

法や英語教師としての心構えを授業の軸にし、その結果生徒の英語力が飛躍的に伸び、さらには卒業時の学力そのものにも影響を与えました。

お世話になった今井康人先生はじめ多くの先生方には感謝の言葉しかありません。

「英語の自動化・PPP 英文法指導」については、「英語教育今井塾」で今井康人先生からご指導を受けることができ、生徒の笑顔が溢れる英文法授業を実践できるようになります。

「先生の生徒で良かった…」

卒業式で生徒が小林にくれた言葉です。

人生を豊かにする英語力が身につくことを願い、生徒の心に体に深く英語が染み込む授業を実践できるよう今後も全力で英語教育に取り組んで参りたいと思います。

(北海道室蘭清水丘高等学校 教諭)